

白川静のことば
《7》



金子都美絵・画

法の初文は禳ほうとかかれる。禳ほうに含まれる廌たいは解廌かいたいとよばれる神羊で、重大な犯罪については羊神判が行われた。その方法は「墨子ぼくし、明鬼めい」に、齊せいの社で行われた実例が記録されている。羊神判の勝者の羊には神の祝福を示す文身が、心の形で加えられる。その字は慶である。敗訴者の羊はその人（大）と、審判のとき神に宣誓した日の蓋をとり去ったきよととも、水にすてる。その字が禳ほうである。去は古く去と書かれたが、去るとは祛はらうことである。禳ほうも金文では廢の義に用いられる。廢棄して祛はらうのは、罪を汚れと考えるからである。罪悪は神に対する汚穢である。それで大袂たいいのように、これを水に流し捨て、祛はらい清めるのである。

〈中略〉

罪とはその本質において、神に対するものであった。

（新訂『字統』平凡社 p16

「字統の編集について 五、字形の問題」より抜粋）

